

近畿地方 流域治水シンポジウム

寝屋川流域の取り組み

令和3年6月9日

大阪府都市整備部河川室
河川整備課 安藤大輔

令和3年5月20～21日の豪雨に対する治水施設の貯留実績（寝屋川流域）

速報版

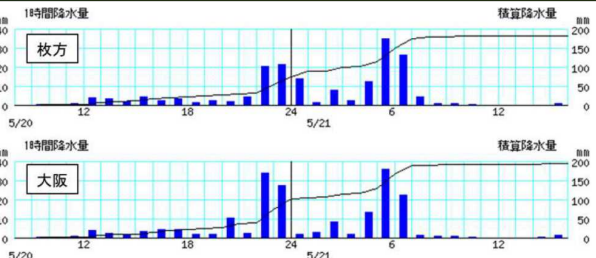
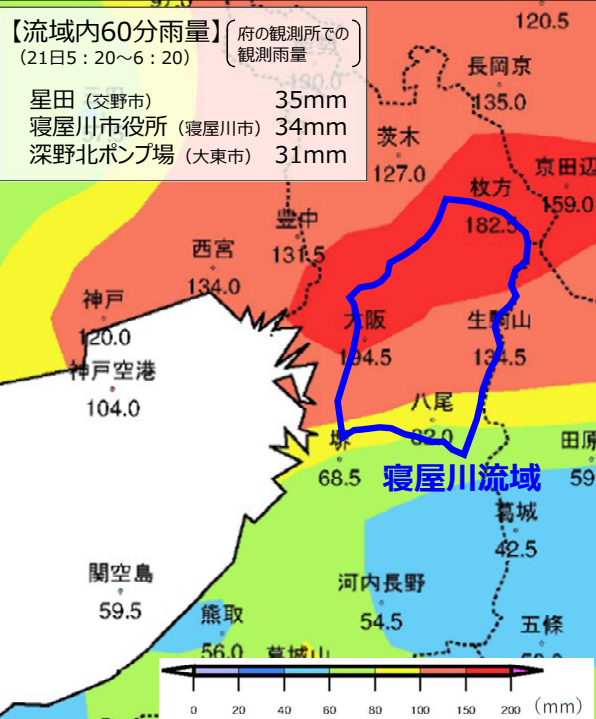
- 寝屋川流域では、河川、下水道等が一体となった総合治水対策として、遊水地、地下河川、流域調節池、下水道増補幹線等の貯留施設の整備を推進。
- 大阪管区気象台の発表では、気象台の5箇所の観測地点（能勢、茨木、枚方、豊中、大阪市中央区）で、1時間雨量などの降水量が5月の観測史上1位の値を更新。大阪府の観測点でも、60分雨量で30mm程度の降雨が確認されたが、貯留施設で約148.3万m³を貯留し、浸水被害を軽減。
（内水対策としての貯留量が、最大値を記録（これまでの最大値：H30.7.5～7 63.8万m³））
- 令和3年3月30日に供用開始した北部地下河川守口調節池（貯留量6.0万m³）では満杯貯留。

※本資料の数値等は、寝屋川流域協議会調べによる。

アメダス期間降水量（20日8：00～21日16：00）

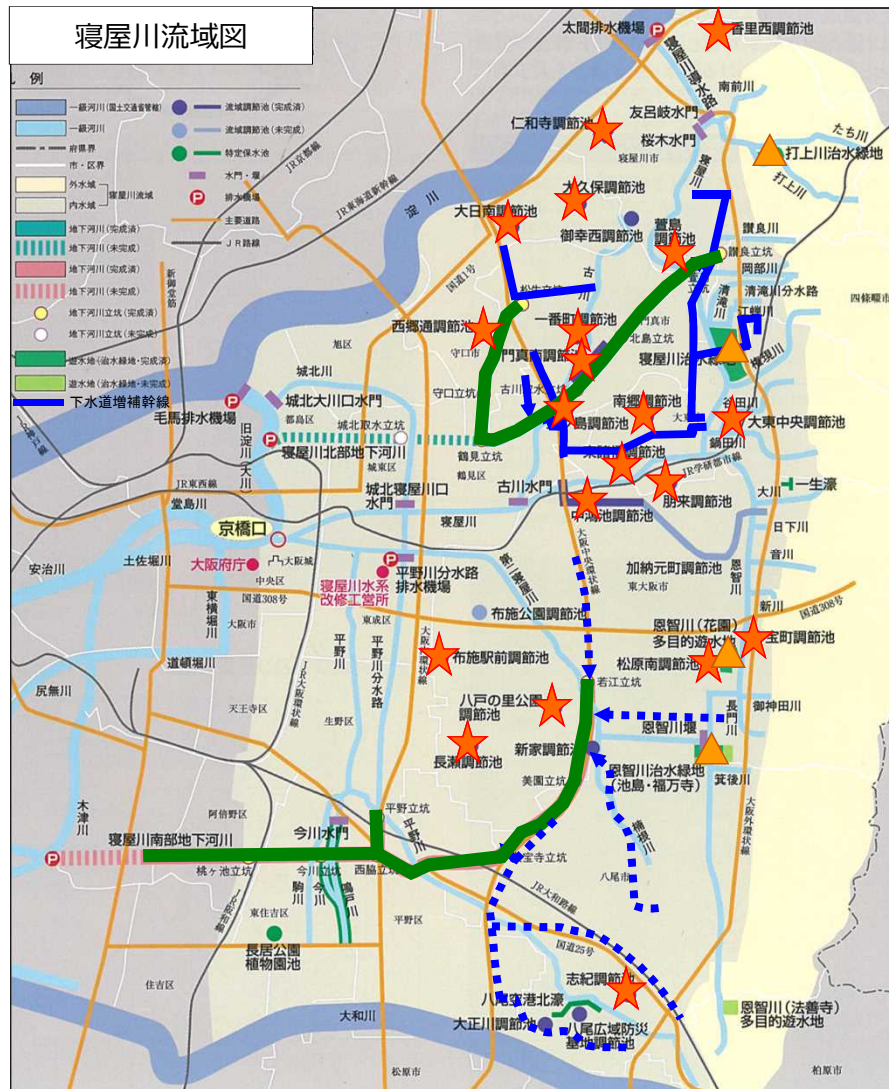
【流域内60分雨量】（府の観測所での観測雨量）
（21日5：20～6：20）

星田（交野市）	35mm
寝屋川市役所（寝屋川市）	34mm
深野北ポンプ場（大東市）	31mm

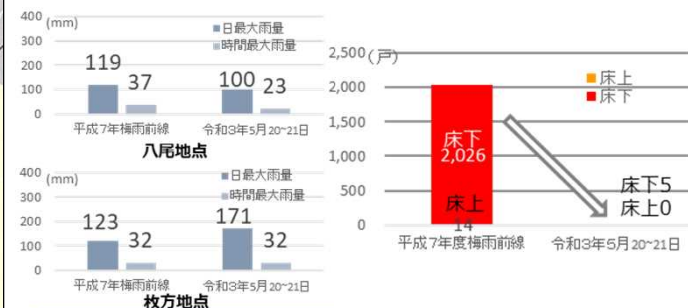


（出典）大阪管区気象台
「令和3年5月20日から21日の梅雨前線や低気圧による大雨について」

寝屋川流域図



流域内での降雨と被害（令和3年5月24日時点）



貯留量 約148.3万m³（供用済全貯留量 529.3万m³）

【外水対策】44.8万m³ 13.9%

▲：遊水地 4箇所 約44.8万m³ 13.9%

【内水対策】103.5万m³ 49.9%

■：地下河川 約58.4万m³ 65.6%
（北部：26.0万m³、南部：32.4万m³）

■：下水道増補幹線 約20.0万m³ 35.1%

★：調節池 約25.1万m³ 41.0%
（24箇所中20箇所貯留）



平常時 直径：9.8m 令和3年5月20～21日 南部地下河川での貯留状況

寝屋川流域の特徴

- 低平地に急速に都市化が進展し、人口と資産が集積した治水上脆弱な流域

■流域面積

大阪東部の12市にまたがる267.6km²

■寝屋川流域内人口

約273万人(平成27年度)

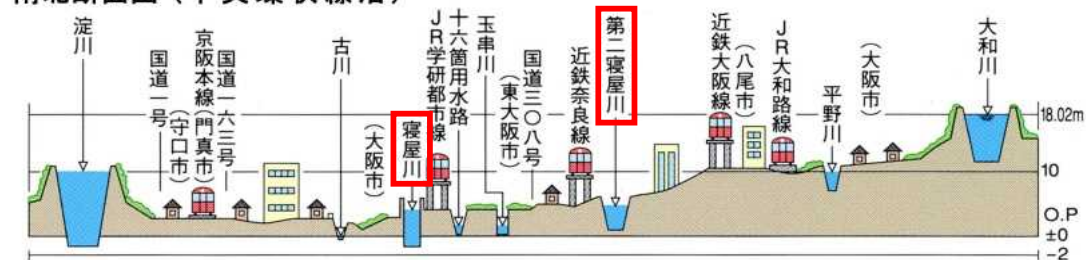
【参考】パリの人口 約224万人

■寝屋川流域内従業者数

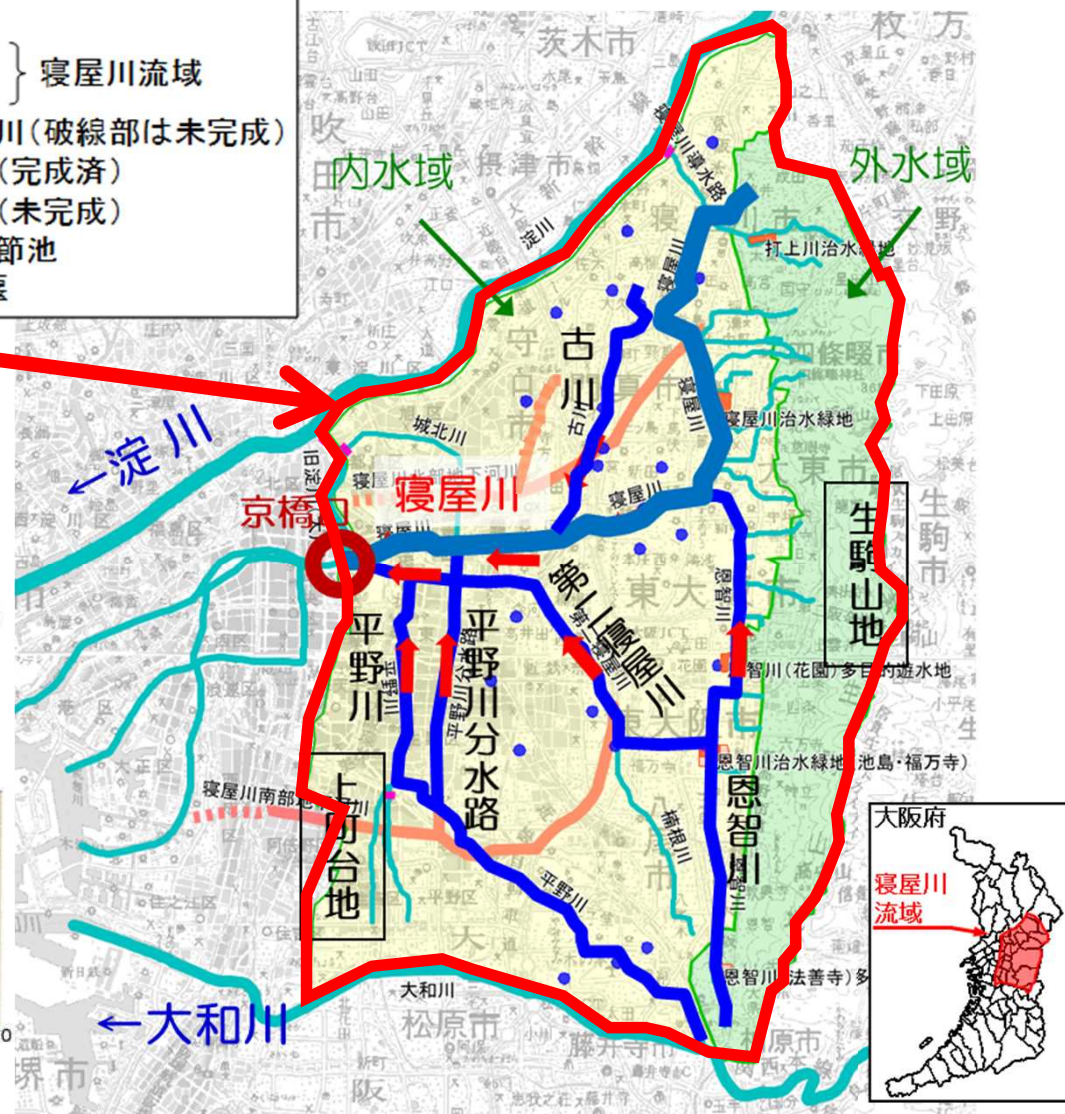
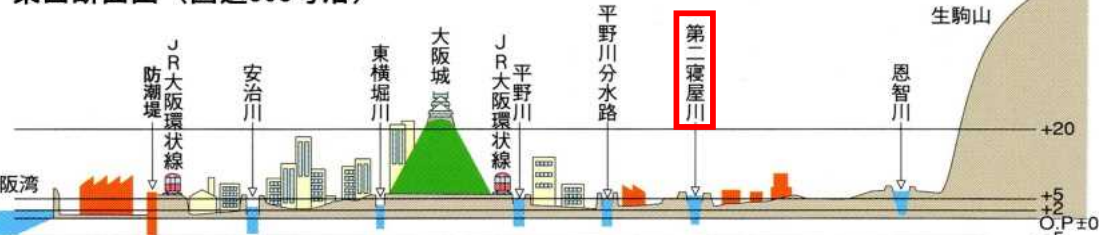
約124万人(平成26年度)



南北断面図(中央環状線沿)

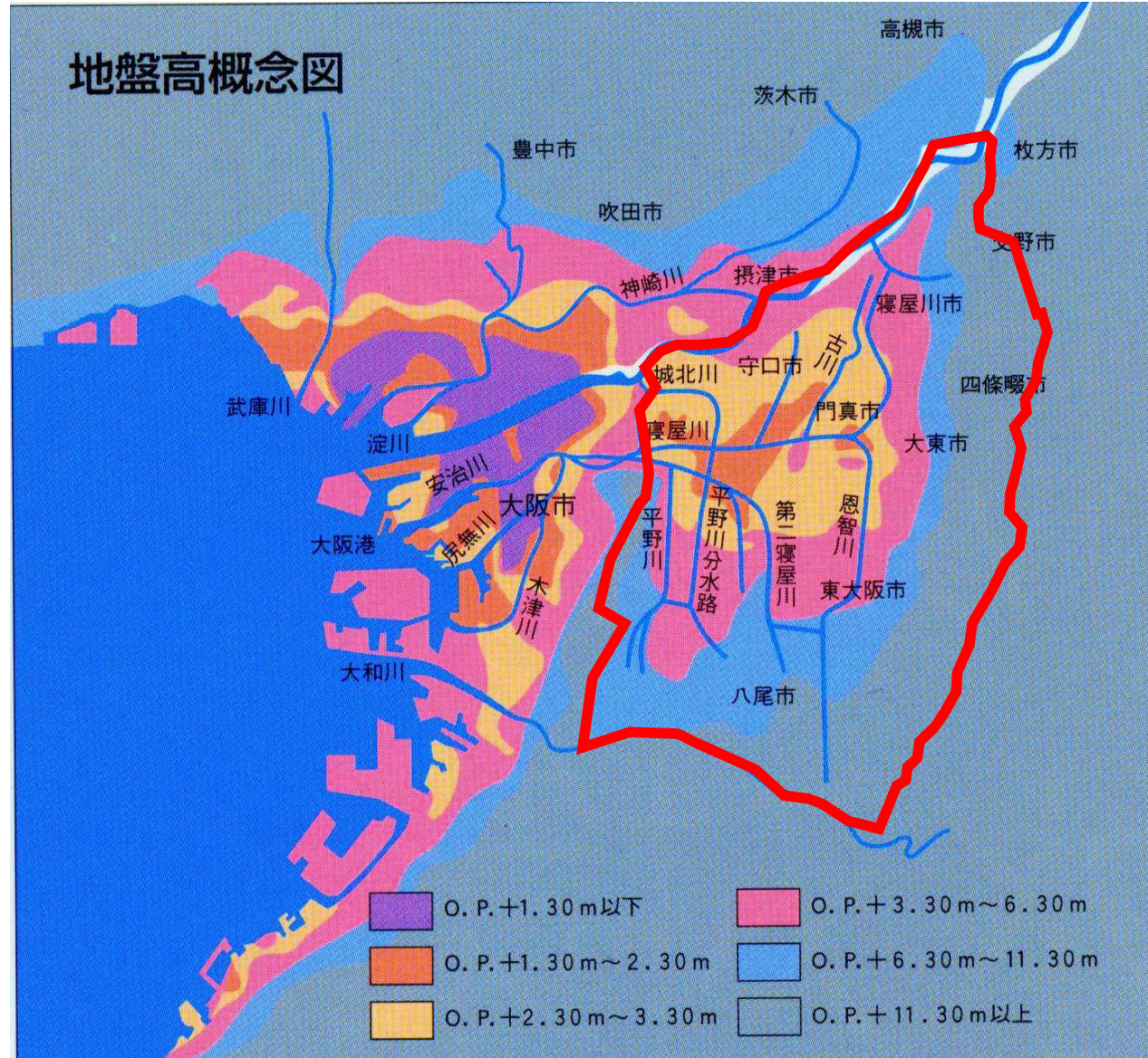


東西断面図(国道308号沿)



寝屋川流域の特徴

- 流域の約3/4にあたる地域は地盤が河川水面より低く、降った雨はそのままでは河川に流入しない内水域



寝屋川流域の特徴

流域内の一級河川は寝屋川、第二寝屋川、恩智川など27河川あり、旧淀川に合流(京橋口)

京橋口



《自然的特徴》

- 古来から淀川と大和川の氾濫源で**低平地**
⇒ **内水域**が広い（流域の約3/4）
- **河床勾配が緩い**（1/1000～1/12500）
⇒ 河口から約20km上流の生駒山麓まで潮位の影
響を受ける感潮区間

《社会的特徴》

- **都市化の進行**
⇒ 流出時間が早い
⇒ 市街地により河川の拡幅用地の確保が困難

※平成18年1月、特定都市河川流域に指定

寝屋川流域の主な浸水被害

■昭和57年8月 台風10号豪雨

時間最大 39.5mm、総雨量 150.5mm、床上 6,778戸、床下浸水 43,262戸



東住吉区



大東市



大東市(恩智川竹橋上流)

■平成7年7月 梅雨前線豪雨

■平成9年8月 前線豪雨

■平成15年5月 前線豪雨



東大阪市内

床上 14戸、床下浸水 2,026戸



八尾市内

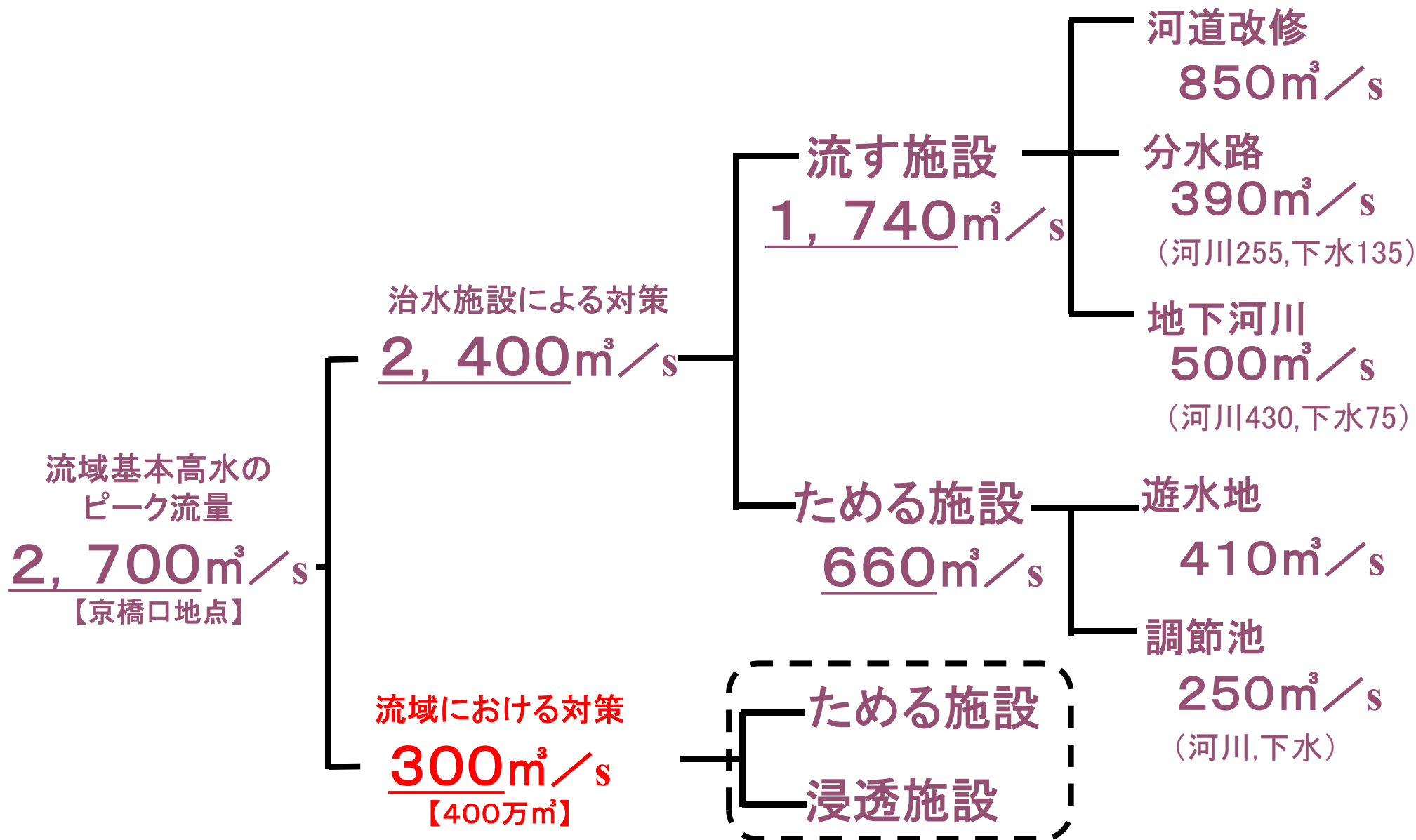
床上 359戸、床下浸水 8,854戸



寝屋川市内

床上 15戸、床下浸水 611戸

洪水処理計画



公：校庭貯留、透水性舗装等

民：一定規模の雨水浸透阻害行為について
知事等の許可が必要

河道改修 (分担流量850m³/s)



河道改修（分担流量850m³/s）

総合治水の背景～地上河川での対応の限界～

◆寝屋川流域は改修工事の結果、堤防はコンクリートの壁で限界まで高く積上げています。

- ・過去から浸水被害に悩まされてきた寝屋川流域ではこれまでの対策で地上河川での洪水対策は限界と考えられます。
- ・高い堤防は自然環境、必ずしも生活環境や景観に良いとは思えませんが、いつも流域住民の安全・安心を守っています。



寝屋川(大東市上町付近)



分水路 (分担流量390m³/s)

城北川200m³/s



遊水地 (分担流量 $410\text{m}^3/\text{s}$)

寝屋川多目的遊水地 $50.3\text{ha} / 146\text{万}\text{m}^3$



遊水地（分担流量 $410\text{m}^3/\text{s}$ ）

寝屋川多目的遊水地 50.3ha / 146万 m^3



洪水時

平成11年8月の貯留状況

遊水地 (分担流量410m³/s)

打上川治水緑地 35m³/s

【13.3ha、27万m³】

寝屋川多目的遊水地 130m³/s

【50.3ha、146万m³】

恩智川(花園)多目的遊水地 50m³/s

【14.0ha、32万m³】

恩智川治水緑地 160m³/s

【40.2ha、165万m³】

恩智川(法善寺)多目的遊水地 30m³/s

【11.4ha、16万m³】



流域調節池（分担流量 $250\text{m}^3/\text{s}$ ）

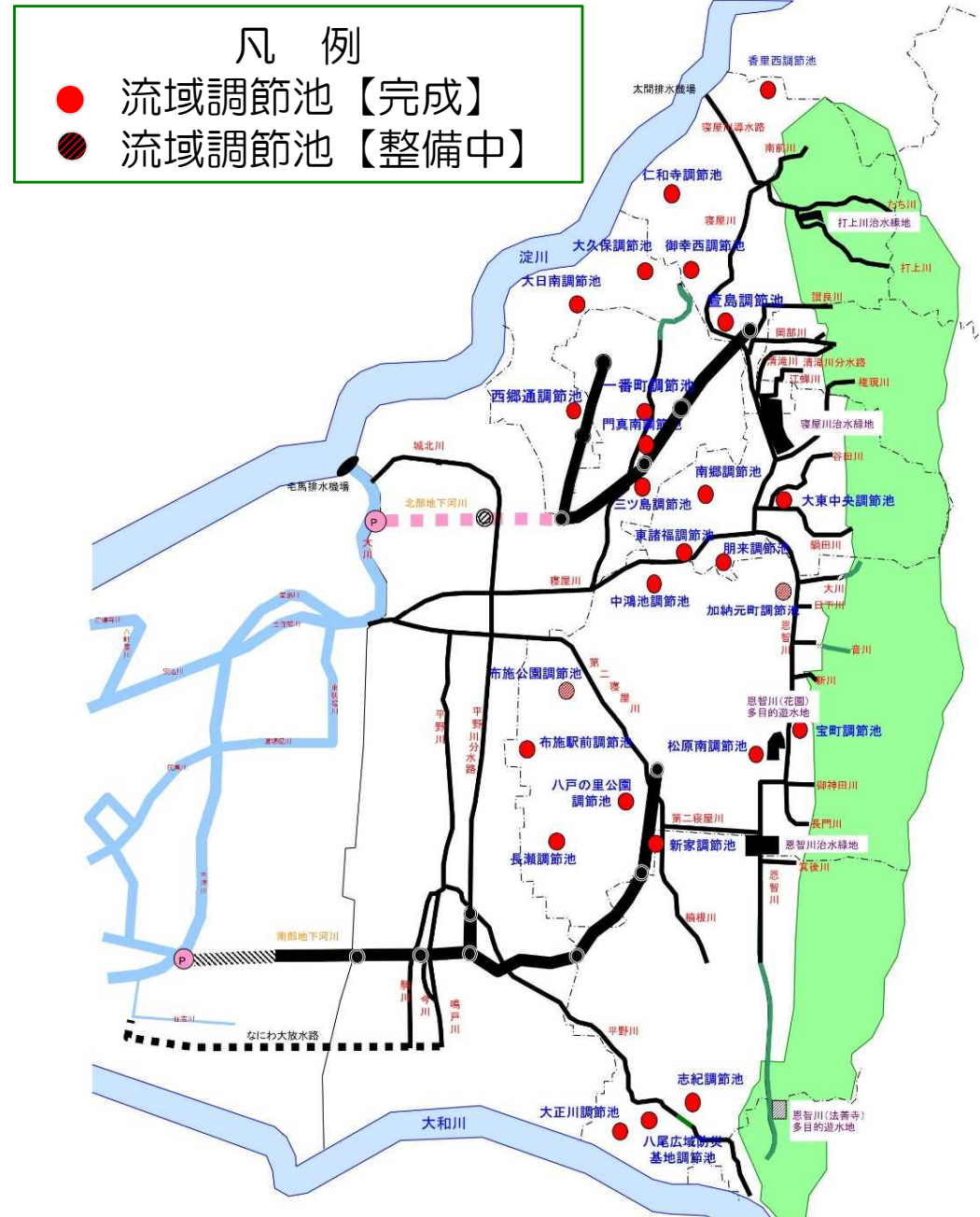


八戸の里公園調節池内部

流域調節池（分担流量250m³/s）

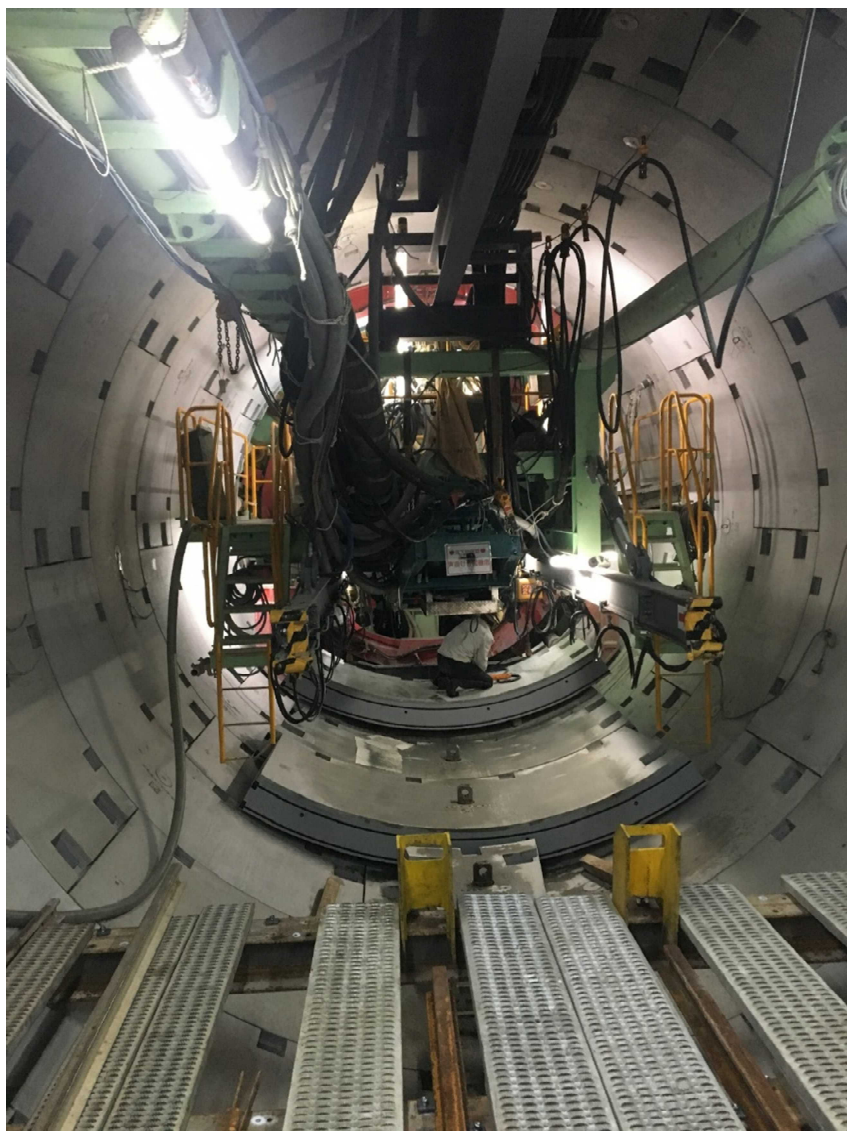
○250m³/sのうち、92m³/s相当が完成

調節池名	設置市	貯留量 (千m ³)	面積 (m ²)	治水機能 概成
香里西	寝屋川市	8.0	2,000	H3.3
大正川	八尾市	14.0	2,330	H4.3
志紀	八尾市	10.0	2,100	H7.3
布施駅前	東大阪市	12.0	3,000	H8.3
三ツ島	門真市	24.0	4,200	H7.10
南郷	大東市	10.0	3,000	H9.8
長瀬	東大阪市	23.0	4,600	H10.3
御幸西	寝屋川市	20.0	2,800	H12.6
中鴻池	東大阪市	20.1	6,200	H12.7
一番町	門真市	15.0	1,900	H13.6
萱島	寝屋川市	26.0	3,000	H15.12
八尾広域防災基地	八尾市	32.0	32,600	H15
大久保	守口市	16.0	2,000	H17.3
東諸福	大東市	26.0	4,000	H17.6
八戸の里公園	東大阪市	36.7	3,600	H18.7
宝町	東大阪市	22.0	4,560	H19.10
松原南	東大阪市	33.0	4,400	H21.4
大東中央	大東市	56.9	4,970	H21.6
仁和寺	寝屋川市	16.0	2,120	H22.4
大日南	守口市	20.0	1,075	H22.4
朋来	大東市	47.0	4,500	H22.7
門真南	門真市	35.0	10,000	H22.7
新家	八尾市	50.0	2,010	H22.9
西郷通	守口市	40.0	3,600	H26.12
小計		612.7		
整 2 備 箇 中 所	布施公園	東大阪市	18.0	
	加納元町（I期）	東大阪市	38.0	
小計		56.0		
合計		668.7		

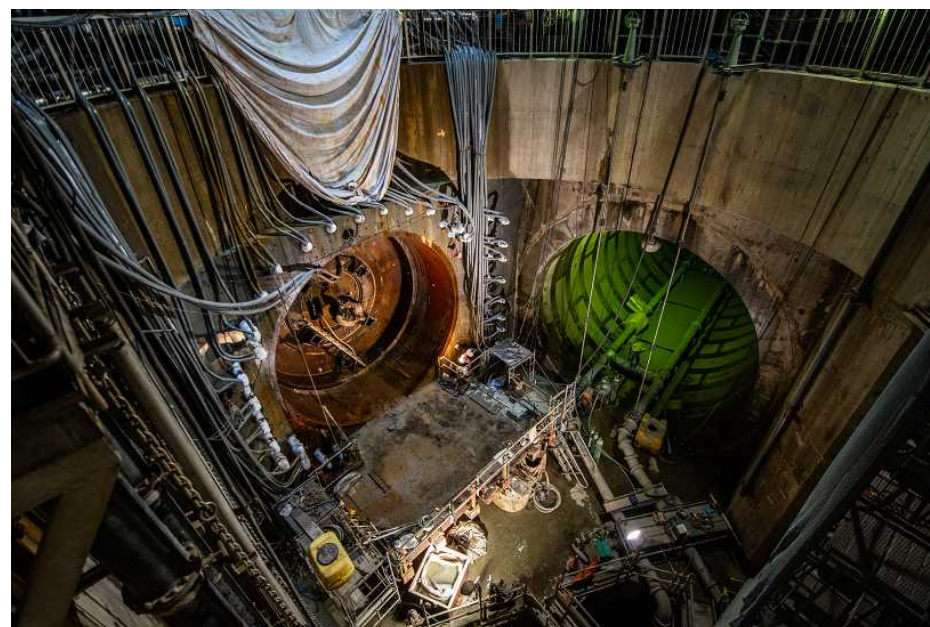
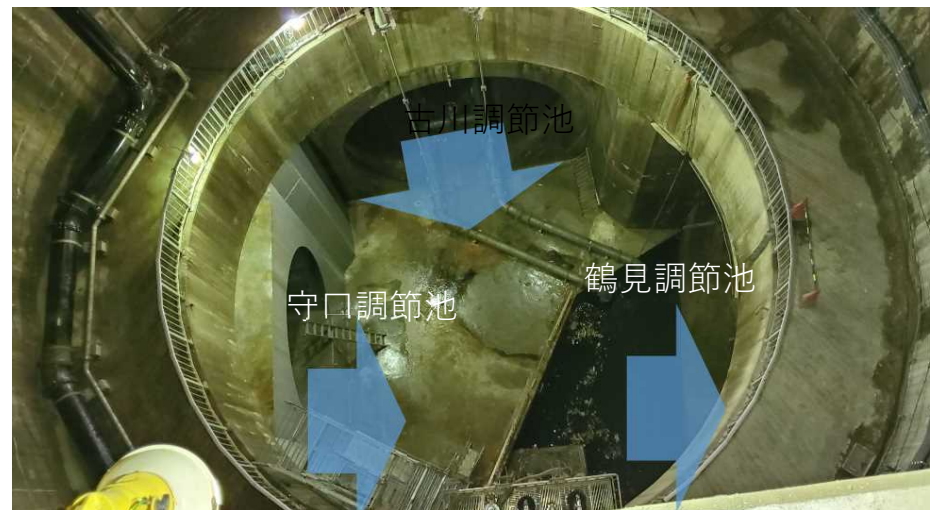


地下河川（分担流量500m³/s）

寝屋川北部地下河川（守口調節池/R3.3貯留運用開始）の施工状況



シールド屈伸先端部

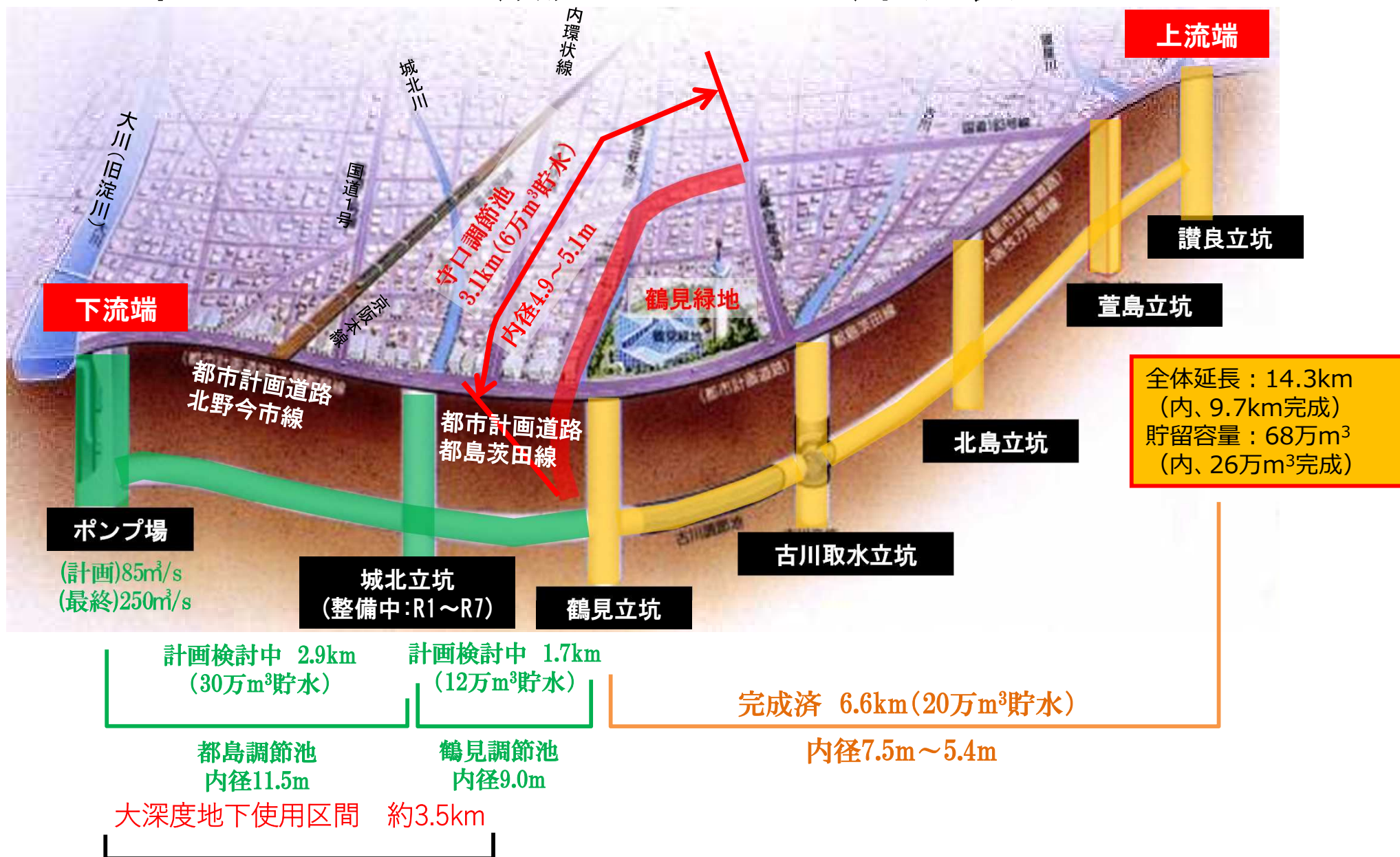


鶴見立坑内部（到達立坑）

地下河川 (分担流量500m³/s)

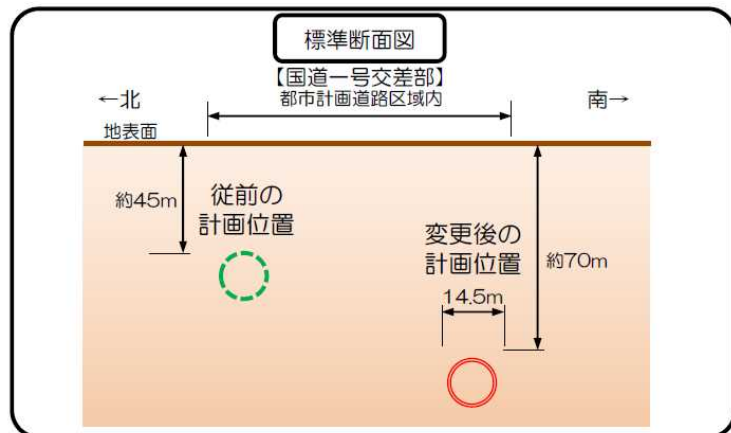
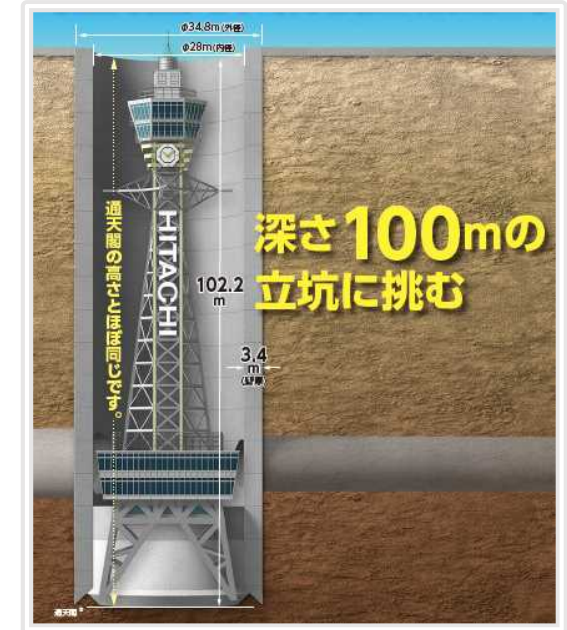
寝屋川北部地下河川

放流量: 250m³/s、総延長14.3km



地下河川（分担流量500m³/s）

北部地下河川整備における大深度地下使用について



ポンプ場～鶴見立坑間は従来の計画位置から大深度地下を使用することに変更したため、深さ約70m付近を通過します。

現在、シールドマシンの発進基地となる城北立坑を令和7年度末を目標に整備中です。

〈城北立坑〉

掘削深さ：102.2m

外径：34.8m

内径：28.0m

流域対応 (分担流量 $300\text{m}^3/\text{s}$)

● 棟間貯留



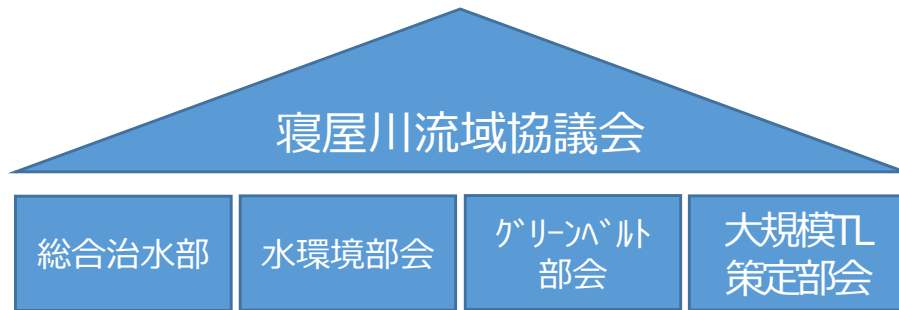
● 校庭貯留



1. 寝屋川流域協議会とは

寝屋川流域内の11市（大阪市、守口市、枚方市、八尾市、寝屋川市、大東市、柏原市、門真市、東大阪市、四條畷市、交野市）と大阪府、近畿地方整備局で構成。

寝屋川流域の都市化の進展に伴う治水環境、水環境の悪化に対し、適切な治水対策、水環境改善施策及び森林保全施策を推進し、水害・土砂災害の防止及び被害の軽減を図るとともに良好な水環境の創造を図り、もって流域の環境改善に資することを目的とする。



協議会の円滑な運営に資するため、4つの部会を設置

2. これまでの取り組み

○寝屋川流域水害対策計画の策定

【H18.2策定/H26.8変更】

府、流域市で策定
部会にて、下水道ポンプの運転調整ルールを調整

○寝屋川流域水環境改善計画の策定

【H24.5策定】

寝屋川流域協議会で策定

○寝屋川流域大規模タイムラインの策定

【H30.8策定】

流域市、国、府、気象台、警察、テレビ局、NTT、
関電、大ガス、鉄道事業者で策定

○広報活動

- ・春、冬の年2回、流域住民を対象とした施設見学会を実施
- ・小学校や流域住民などへの出前講座の実施
- ・Twitterやホームページでの情報発信

○流域対策施設の取り組み推進

- ・小、中学校での校庭貯留の取り組み推進
- ・開発等に伴う貯留施設の設置に適用する技術基準策定と審査



施設見学会の様子と案内ポスター

